

探究通信 “All Different, All Wonderful”

～みんなちがって、みんないい～

【発行日】

令和4年6月21日

【発行者】

進路・探究部

5月30日の6,7限に学校法人新渡戸文化学園新渡戸文化中学校・高等学校より高橋伸明先生を招いてSDGs 基調講演を実施しました。基調講演では、各クラスの男女1名ずつが代表生徒となり講師の高橋先生とのアクティビティや、やりとりを通してSDGsのいくつかの項目に焦点を当て、学びを深めました。



～生徒の振り返り～

・今日のSDGs講演会を通してSDGsが政府や国連だけでなく企業や個人も行動して解決につなげていくことができるのだと学んだ。今まで自分はSDGsを世界で達成しなければならない目標という側面しか見ていなかったが、企業から見たら大きな経済効果を及ぼすものだということに気づくことができた。貧困、教育、ジェンダー平等については自分が思っていたよりも多くの人たちが悩みを抱えていて、その人たちを支援するために多くの企業がプロジェクトを立ち上げていることがわかったから自分たちも積極的に参加していかなければならないと感じた。

・貧困をなくそうという目標を聞いた時、直ぐにパッと思いつくのは、アフリカなどの地域だったが、貧困には2種類あり、相対的貧困に関しては日本も多いことをはじめて知り、他人事ではないということの実感が湧いた。15歳未満で結婚している女性が2億人以上もいることを知り、この点は教育だけでなく、ジェンダー平等を実現する上でも関連性のある事柄だと気づいた。SDGsという窓を通して、自分が知らない、企業や政府の取り組み、その目的など、知らない視点から世界の課題について見つめ直すということの大切さを学ぶことができた。

・私は中学校でSDGsの授業を受けたことがありましたが、その時はあまり詳しく世界がこんな状況で、などやらなかったので正直興味をいだけませんでした。しかし、今回の講習会ではSDGsを通して世界の現状について詳しく知れました。相対的貧困である日本の子供は6人に1人ということや、15歳未満で結婚している女の子が世界で2億5000万人もいるということなどは私にとって、とても衝撃的でした。今まであまり興味がありませんでしたが、もっと世界の現状について調べたいと考えるようになりました。

・SDGsは一気に覚えようとせず一つずつテーマごとにじっくり考えていくほうが理解を深めやすいと思った。クイズの答えが全部予想外れて、特に貧困の子供が6人に一人だと知った時はとてもびっくりした。まず解決しようとする前に問題を細かく知る必要があると感じた。

・SDGsについて考えたことはあったが自分1人でできることという視点で考えたことはなかった。寄付するなどありきたりなことは浮かんだが、1人では限界があり、あまり有効とはいえなかった。貧困や教育(日本もだけど)など主に他国メインのものの達成は個人では難しいと思った。だから、CO2削減や節水など個人でできることにまず取り組もうと思った。個人でできるものでも皆がやらないと意味がないから協力が大切だと思った。

・SDGsは政府や企業が行っているものというイメージがあったけれど、買い物の仕方など少しの私達の意識や行動が目標達成に繋がるのだと学んだ。また、行動するかしないかが2030年までの達成を大きく左右するのだと思うと、自分の役割に責任を感じた。これからは他国や他者、未来のことを思った行動することで相対的に経済や社会が発展し環境も良くなり、結果自分の幸せにも繋がるのだと考えた。

・私は4択クイズをすべて間違えてしまい、自分の世界に対する認識のなさを痛感しました。また、貧困に苦しんでいる人、読み書きができない人、15歳未満で結婚している人が私の予想よりもはるかに多く、ショックを受けました。普段自分には何ができるかを考えたことがあまりなかったので、今回かんがえてみて、これからは自ら考えてみようと思いました。



～生徒の振り返り～

・SDGsは、政府や国連、企業のみではなく、個人も取り組むことができる。また、多くの企業が取り組んでいることで、SDGsによる経済効果は約1200兆円にのぼる。理由として、投資家はその活動を重視する傾向にあるから。貧困は絶対貧困と相対貧困があり、日本は相対貧困の割合が先進国の中でも高い。世界には約3億3000万人の人が教育を受けられていない。その中の1/3が紛争地や被災地にすんでいる。ジェンダー平等実現のためにはみんながお互いを受け入れることが大切。



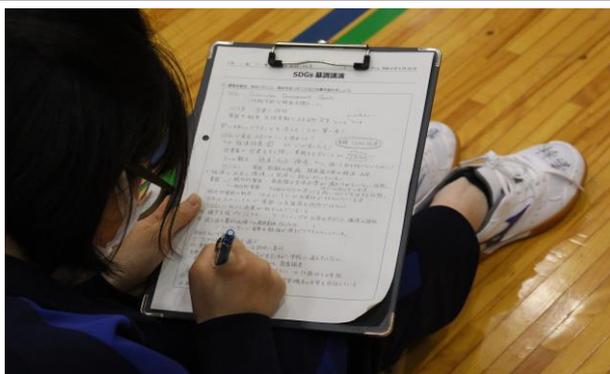
・経済効果がどのような条件で数値が決まるのか、など少し不明瞭な部分もあったが、個人個人が意識して環境問題に取り組む、というのは合点がいったし、建設的でとてもよい講演の仕方だと学んだ。途中の、機関投資家と手を組んで、環境配慮しない企業には金が集まらない、という話はとても興味深く、もっと掘り下げてほしかった。事実上の脅し。このことから、企業も利益がなかったり、従わないと不利益を被る状況にならないと、環境への取り組みにはなかなか手を出さないと学んだ。企業側も資金調達がかかっているのだから必死にはなるだろう。しかし実態がないのに馬鹿みたいに環境PRするような企業には注意しなければならないだろうと学んだ。

・私は以前からジェンダー平等問題に関心を持っており、今回の話し合い等でさらに深めることができました。男性と女性の違いは主に体のつくりや筋肉量だけであるのに、それを拡大解釈した、「女性は男性より仕事ができない」「育児は女性がすべき」などという考え方はやはり腑に落ちませんでした。「ジェンダー(社会的役割としての性)」が「平等」とはどういうことなのか、知識と考えを整理することができました。

・最近社会で重視されているSDGsについて身近な出来事を通してしっかりと考えさせられた90分間でした。また、SDGsは国連で新しく採択されたものばかりだと思っていましたが、SDGsは前進となるMDGsを基にして作られていたことにとっても驚きました。MDGsはSDGsと比べてどのようなところが同じでどのようなことが異なっているのかを比べてみたいと思いました。また、自分は4番の目標である「質の高い教育目標をみんなに」についての説明がすごくしっくりときました。貧しい家に生まれると経済的に豊かな家に生まれた子供に比べて学校にいけない確率が4倍になるということにとってもびっくりしました。この目標を解決するために、企業では返済不要の奨学金を出したりするなど様々な取り組みを行っていることがわかりました。自分もSDGsの目標に貢献できるような人になりたい。

・単純に課題やゴールのみを提示するのではなく、現在の問題についての具体的な状況、人数などを写真やグラフを用いた説明を受けることで想像がしやすくなり、より深く理解できたと思う。また、状況を改善するために今自分にできることを一つ一つ考えてみることの大切さを学んだ。

・貧困で苦しんでいる人の具体的な人数や、15歳以下で結婚した女性を数字で表すことによって、問題の大きさを実感することができた。前々からジェンダー平等について疑問を持っていた。男女は身体的な違いがある為、どうやっても平等にはならないと思う。差別なのか区別なのか判断して、男女ともに支えあっていくのが良いと考えた。講演を聞いてしっかりと自分の考えを整理するまでは、ジェンダー平等と聞くと「できるわけがない」と否定していましたが、「パートナーシップを築けば良い」とプラスに考えることができた。



担当より

知っているようで知らなかったことや、私たちの日常で当たり前であることが、一歩外に出てみると当たり前でなかったりと、改めて学んだことがあったかと思います。今回、抱いた疑問や驚きをもっと掘り下げて探究していきましょう。

成田

第3号 5月30日実施